

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

2021年 12月号 第172号

報告

NPO 法人じんかれん主催 第47回 精神保健福祉 『県民の集い』



今年の県民の集いは綾瀬市中央公民館において11月21日（日）97名の参加のもと開催されました。本来ならば2020年度に大和市において開催される予定でしたが、生憎、コロナウイルス感染の影響を受け会場が借りられなくなるなど、二転三転の末 漸く上記の会場を借りることができました。会場は100名しか入場できず、また、30分で会場の準備をしなければならないという厳しい制約の中で、地元の会員の方々、また、ボランティアの方々、行政の方々の協力を頂いて無事、予定通りに開催することができました。

テーマ みんなで考える

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」

講師 藤井 千代 氏

講師の藤井千代氏は国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部部長といういかめしい肩書をお持ちの方ですが、ご自身の身内に精神疾患の方がおられご苦労されたことなどから、精神障害者や家族を支えるための施策について広くデータを集めて研究し、国に提言するなど、活躍しておられます。この日の講演も精神医療保健福祉を本気で良くしたいという熱い思いが感じられる講演でした。

概要を報告します。

〈参考〉月間みんなねっと誌 2018年12月号
特集「当事者と家族の意思を第一に施策提言に取り組む」

今日の精神保健医療福祉に関する様々な課題

- ・メンタルヘルス（精神疾患、精神障害を含む）に関する誤解や偏見、人権擁護に関する課題
- ・精神的な不調に対する初期支援の不足→重症化してからの支援 措置入院から始まる医療
- ・当事者や家族等の声が施策に反映されない
- ・医療・福祉・介護・その他の連携不足に関する課題
- ・精神科医療・福祉の質に関する課題
- ・社会参加の促進（就労等）に関する課題
- ・長期入院に関する課題 良くなっても退院できない…など

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」 (略称：にも包括) とは

- ・精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労等）、地域の助け合い、普及啓発などが包括的に確保されたシステム
- ・「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念を支えるもの
- ・多様な精神疾患などに対応するための基盤整備であること
- ・住民一人ひとりの暮らしと生き甲斐、地域を共に創る「地域共生社会」の実現に欠かせないもの

地域共生社会の構築

- ・「支え手」「受け手」という関係を超えて、また世代や分野を超えて繋がることで地域を共に創っていく社会
- ・個人や世帯が抱える課題に対して包括的に「丸ごと」支援する地域社会

地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制とそのあり方

高齢者支援 障害者支援 生活困窮者支援 子ども・子育て家庭支援 これらすべての支援が関連しあいながら土台となって地域力を強化する
他人事ではなくわが事として考える社会

- ・断らない相談支援：様々な相談を受け止め、必要な関係機関に繋ぐ 世帯を取り巻く支援関係者全体を調整する 継続的に繋がり続ける
- ・社会とのつながりを回復する支援
- ・地域づくりに向けた支援：地域社会からの孤立を防ぎ、交流や活躍の機会と役割を生み出す

日本の社会構造の変化⇒様々な課題の発生

- ・人口減少、少子高齢化の加速、人生100年時代
- ・単身世帯の増加、地域や家庭における相互扶助機能の低下
- ・外国人労働者の増加、性自認の多様化、社会の構成員や価値観の多様性の広がり
- ⇒**✓個人や世帯が抱える「生きづらさ」「困りごと」の複雑化・多様化**
- ✓社会保障制度をさらに高める必要性
- ✓公的支援・医療・福祉・教育・産業などが領域を超えて連携し、地域社会を支える必要性がある

「にも包括」における2つのアプローチ

- 1) 精神障害者支援に関するアプローチ
 - ・福祉・介護など関係機関との連携
 - ・多様な精神疾患への対応
 - ・退院後支援 ・地域移行・地域定着支援
 - ・家族支援 ・就学・就労支援 など
- 2) すべての住民の健康と生活上のニーズに関する課題へのアプローチ
 - ・普及啓発 ・相談支援における見立て
 - ・早期介入 ・生活支援
 - ・関係機関との連携 など

支援理念の変遷

保護⇒自立の支援⇒個人としての生きかたの尊重
リカバリーのための支援
(世界の考え方)

リカバリーとは？

態度、価値、感情、目標、スキル、社会的役割な

どを変える個々の特性あるプロセスである。
リカバリーは病気による制限がありながらも、満足で、希望にあふれた生活や充実した人生を送る方法である。 また、精神疾患の深刻な影響の中で、人生の新しい意味や目的を見出すことでもある。精神疾患からのリカバリーは、単に疾患自体からの回復以上のものである。(Anthony, 1993)

リカバリー志向型サービスの支援例

- ・本人主体の個別支援（本人がどうしたいか）
- ・多職種による支援（いろいろな人の考えを聞く）
- ・アウトリーチ支援（生活実態を知る）
- ・エンパワメント支援（力を引き出す事を重視）
- ・リカバリーを信じる態度
- ・家族支援

多職種・多機関連携による包括ケア

個々の連携から地域全体の連携へ

精神障害者を中心に顔の見える連携を作る

医療サービス：PSW 看護師 主治医 訪問看護
ステーション 一般医療機関など

障害福祉サービス：相談支援専門員 サービス事業者など

行政機関：保健師 PSW 精神保健福祉相談員

その他：学校 職場 ハローワークなど

社会とのつながり・社会参加の促進

- ・社会と繋がりたい時に繋がることができる地域
- ・地域住民と自然に交流できる場や機会をふやす
- ・働く場所の整備、働くことや活動することの体験の機会の確保
- ・ピアサポーターの養成や活躍の場の創出
- ・就労支援の充実
- ・当事者が普及啓発や教育、精神保健相談、意思決定支援、権利擁護などを行う体制の構築

入院中の人へのケアは？

- ・入院中であっても市民の一人であることは同じ
- ・医療のみのケアでは不十分な事も多い⇒病院のみにお任せしない（地域が支える）
- ・精神科医療機関の地域生活重視の方向性への更なるシフトが必要
- ・地域と病院の連携
- ・病院スタッフが地域に出ていくこと
- ・病院の中に外部の人が入ること

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの

〈基本方針〉

地域共生社会の実現： 精神障害や精神疾患、メンタルヘルス不調を特別視せず、「支援のはざま」をなくす

「地域で暮らす」を前提とする： 本人や家族が抱える課題やニーズに対して、本人が住み慣れた地域で支援を行うことを前提とする

当事者の希望・価値観の重視： 本人の希望や価値観を重視し、本人や家族との信頼関係、支援の方向性の共有を十分に行う

関係機関との連携構築と包括的支援： 個々の支援を通じて関係機関との有機的な連携を構築し、包括的支援を提供する

〈構築に向けてすべきこと〉

地域の課題の共有： 現状を分析し、協議の場を通じて、自治体、医療機関、福祉事業所、関係者間で地域の課題を共有する

目標の設定： 協議の場で年度ごとに目標を設定し、目標達成のためのプランを検討する

個別の支援を通じて支援体制を構築する： 関係者が顔の見える関係を構築し、連携により既存の資源・仕組みを有効活用する

成果の評価： 一定期間ごとに進捗状況、目標達成状況を確認し、プランを見直す

〔講演の感想〕

藤井氏は、社会構造の急激な変化、多様性、そこから生じる様々な社会問題を広く、また深く捉え、精神障害者だけでなく、住民全てに対してのメンタルヘルスケアの不十分さを改善するために、この地域包括ケアシステムを構築することが非常に重要であること、また、それによって地域共生社会を創ることができる、と力説しておられる事を強く感じました。また、地域の協議の場には当事者・家族も加わり、全ての人が安心して暮らせる地域共生社会実現のために知恵を出し合う事が大切であると思いました。 （まとめ 谷田川）



これからの予定とお知らせ

新年会バス旅行

日時：2022年1月14日（金）

行き先：三島大社——柿田川湧水公園——
富士山世界遺産センター

募集人数：30名

参加費：当事者 2000円

家族 3000円

集合場所：平塚駅南口 JA ビル前

集合時間：8時30分

出発時間：9時

平塚帰着予定：17時40分

持ち物：当事者の方は障害者手帳をご持参ください。

申込先：TEL080-1229-5560 倉鹿野まで

申込締切：2021年12月30日（木）

寒い時期ですが、新年会も兼ねて家族会バス旅行を行います。皆さま、奮ってご参加下さい。前は紅葉シーズンでしたが、あいにく曇りで富士山は厚い雲の中でした。今回はきっと冬の富士山を十分堪能できると思います。久しぶりの外出を楽しみましょう。当事者の方々のご参加をお待ちします。

昼食は柿田川百年水豆腐と松花堂弁当を予定しています。

*今後、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が出された場合は中止する可能性もあります。その際はご了承をお願い致します。



2月定例会 グループホーム見学予定

最近、新しいグループホームがつぎつぎと平塚市内に作られてきています。その中のいくつかを見学する予定です。詳細はあゆみ会報1月号でお知らせします。



ほのぼの 「さがみハート展」

先日、相模原市で第13回「さがみハート展～詩と絵画のコラボレーション～」が開催されました。この展覧会は、精神に障害を持った人々が書いた詩に、絵の愛好家や中学生等がその詩を題材に絵を描き一緒に展示するものです。この展覧会を通して、障害を持った人々のメッセージや思いが社会に届き、人と人の繋がり、障害への理解が広がることを目指しています。（資料より）会場は相模原駅ビルの中にある市民ギャラリーで、62の作品それぞれに思い思いの絵が添えられ、詩を書いた人の思い、絵を描いた人の思いに自分の思いを重ねながら、見て回りました。このハート展は実行委員会を作って進められていること、日本画家の人と絵の会、当事者団体、福祉関係団体、医療機関、中学校など40近い団体が協力団体に加わっていることにびっくりすると同時に、この展覧会が13回を数えるほど続けられていること、啓発活動として素晴らしい企画であることに感動をおぼえました。

どの詩も絵も感慨深いものでしたが、その中の一つを紹介します。添えられていた絵を紹介できないのは残念ですが、青年が高齢のおばあさんの手をひきながら、横断歩道を渡る絵が添えられていました。

「強くなれる理由を知りたい」

強くなれる理由を僕は知りたい

人の評価に支配され
人の視線にビクビクし

人と比べては卑屈になり
臆病風に吹かれて一步踏み出せず
挑戦しても腰が定まらず
自尊心が傷つくことを恐れ

常に何かに怯えてきた気がする
まるで隅っこに縮こまって生きてるようだ

強くなれる理由を僕は知りたい

でも たぶん僕は強くはなれないだろう
なら せめて
弱さをさらけ出せる勇気を持ちたい
そして弱い人に寄り添える人になりたい



精神保健福祉ボランティアグループ こんぺいとうのお知らせ

予定

- 12月11日（土）お茶会 中央公民館 3F 和室
- 12月18日（土）定例会 福祉会館第3会議室
- 12月25日（土）お茶会 中央公民館 3F 和室
- 1月8日（土）お茶会 中央公民館 3F 和室
- 1月15日（土）定例会 福祉会館第3会議室
- 1月22日（土）お茶会 中央公民館 3F 和室

時間はいずれも 13:30～

お茶会参加費 100円

お問い合わせは小沢さん迄 0463-22-4515

今年もあとひと月、一つでも多く笑顔の花が
咲きますように

12月の声を聞き、めっきり寒くなってきました。忙しい時期ですが寝不足は風邪の元、気を付けてお過ごしください。サロンあゆみは12月17日（金）も開いています。

